

Ishiwara Elementary School

研 究 主 題

外国語に親しみ、学んだことを活用しながらコミュニケーションをとろうとする児童の育成

～主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点から～

あ い さ つ

この度、調布市立石原小学校は、平成30年度・令和元年度調布市教育委員会研究推進校として「外国語に親しみ、学んだことを活用しながらコミュニケーションをとろうとする児童の育成～主体的・対話的で深い学びの授業改善から～」を研究主題として研究を進め、ここにその成果を発表されますことを、心から感謝申し上げます。

石原小学校では、学びの基礎・土台をつくるための全校で取り組む「学びのアシスト」となる指導方法を共有し、新学習指導要領に示された「主体的な学び」「対話的な学び」の実現に向けた授業改善を進めることとしました。

教師個々の指導力だけでなく、学校全体で授業改善の方針の共通理解を図り、児童同士の認め合いや自己肯定感の高まりを目標とする研究は、学校の組織力向上を資する研究であり、学校教育に求められている提案であったと確信しております。

本研究の成果が、市内はもとより、多くの学校において、子どもたちの学びの質の向上につながっていくことを願っております。

調布市教育委員会教育長 大和田 正治

は じ め に

“We hope that children enjoy learning English.”

“Even teachers really want to learn more and start to like English.”

We have been researching above points of view.

Please confirm the enclosed research summary .

We would appreciate it if you would give us some advice.

Best regards.

Chofu City Ishiwara Elementary school

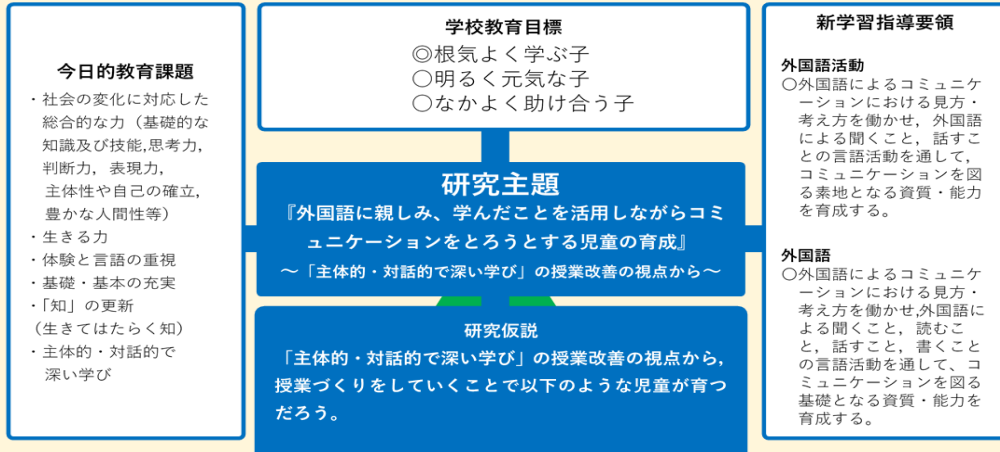
Principal Hikawa Nobutoshi

平成30・令和元年度 調布市教育委員会研究推進校

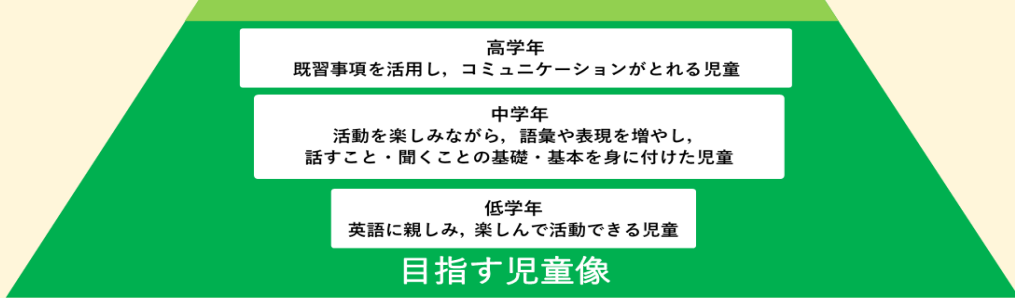
令和2年1月31日（金） 調布市立石原小学校

石原小の研究

研究構想図



- ① 学ぶことに必然性をもたせる。そのことで、問題解決の意識をもち、その問題を解決するための見通しをもととする児童が育つだろう。
- ② 外国語をつかう機会を広げることで、学んだことを活用し、外国語を通してコミュニケーションがとれた喜びを知ること、さらにすすんで学ぼうとする児童が育つだろう。
- ③ 振り返りを充実させることにより、学んだことをつなぎ、新たな価値や知識を獲得できる児童が育つだろう。



- ・素直で、教えたことを実践しようとする児童が多い。
- ・あいさつがしっかりとできる
- ・基礎学力に課題がある
- ・自己肯定感が低い
- ・コミュニケーションに課題
- ・語彙力に課題
- ・経験・体験学習の不足
- ・学力の二極化
- ・「書く」ことへの抵抗感
- ・既習が生かされない

- 全教科に関わること**
- ・教師によって指導力に差がある
 - ・教師の喋りすぎ、教えずき
 - ・指導法が確立されていないことへの不安
 - ・教員同士、学び合う風土がある
- 主に、外国語の授業に関わること**
- ・AET 中心の授業展開になりがち
 - ・HRT になったときの指導法
 - ・AET との連携不足

主体的・対話的で深い学び を実現するための取組

Reflection・必然性

主体的な学び

Reflection では、粘り強く取り組もうという側面、自らの学習を調整しようとする側面を見取り、価値付け、見通しをもって学習に取り組む姿勢を育む。必然性においては、単元の導入部分で、児童がなぜ、その表現を学ぶのかについて必然性をもたせる仕掛けを行い、問題解決的な学習につなげる。

Script+1

対話的な学び

低・中学年は、対話をつなぐためにリアクション (Script+1) を身に付ける。まずは、知識及び技能を定着させたくて思考力・判断力・表現力につなげる。高学年では、定着させた表現を応用できるようにする。応用することで質問の幅が広がり、英語をつかって相手の思いや考えを伝えることが対話につながっていく。

既習事項の活用・学びを生活や次の学習にむすびつける

深い学び

高学年では、単元に関わらず、学んだことをフル活用し、応用もできるようにする。学んだことに自信をつけ、さらに深い学びに挑戦していく。低・中学年では、学んだこと（色や動物の名前など）が授業を越えて、生活の場面で学んだことに気付き、さらに英語について興味・関心につながるようにする。

Ishiwara Style

1 単位時間のモデル

Greeting

T (C) : Let's start our English class.
T : Are you ready?
C : Yes, I'm ready.
T : How's the weather today?
C : It's sunny.
T : What's the date today?
C : It's April 25th.
T : What day is it today?
C : It's Friday.



必然性

主体的な学び

Warming up

先生紹介をしよう！インタビューシート1（質問集）

名前（ ）
自分のたんとう（ A ・ B ）

Mr. / Ms. () (先生) ペア ()

① あいさつ (AB) はじめ
Hello. How are you? / Thank you very much.

② 出身地をたずねたいとき (A) Where are you from?
like だつちのもの、have だつち持っているものをたずねることができます。

③ 誕生日をたずねたいとき (A) When is your birthday?
Spot food color など聞いていくと質問のほぼが広がります。

④ できるもの・好きなことをわくわくたずねたいとき (B) Do you ()? / What () do you like?
play the がつちのもの、play だけがつちのもの、play がつちのものを確認しよう！先生の空めることをたくさん聞こう！（質問4つは見つけよう、Bの人ががんばって！）

⑤ できることをたずねたいとき (B) What do you want? / Can you ()? / What can you do?

単元の導入で、児童が学びたくなるようなしかけ

Small talk

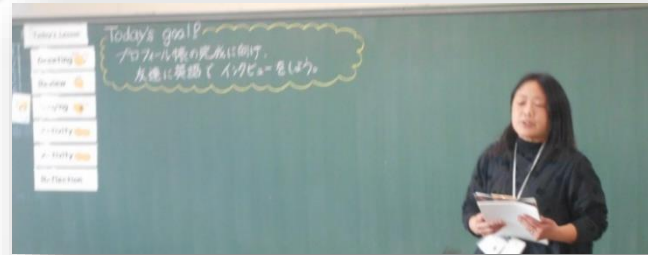
本時のめあてにつなげるように、本時で学ぶ表現を交えた Small talk を行います。また AET がいるときは、HRT と AET の会話を見せ、その中で目標表現をつかいます。Warming up では、児童同士による既習事項を活用した質問タイムも1分という時間を決め、既習事項の定着を促しました。

既習事項の活用

深い学び

本時のめあての提示。Small talk からめあてまで、滑らかに接続をします。

Today's Goal



Activity

Presentation

Script+1

対話的な学び

表現の応用の例

A : What food do you like?

B : I like sushi.

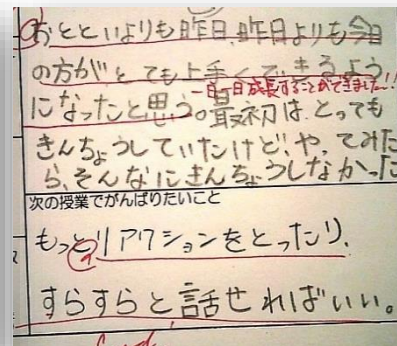
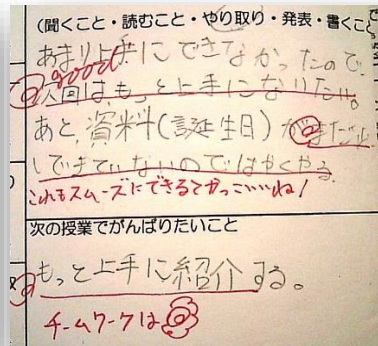
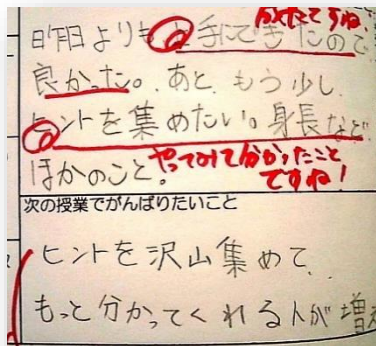
A : Oh, really? Me, too.

B : What **sushi** do you like?

A : I like.....

など、相手のことをより深く知るために、どのように表現を応用したらよいかも児童に考えさせました。

Reflection



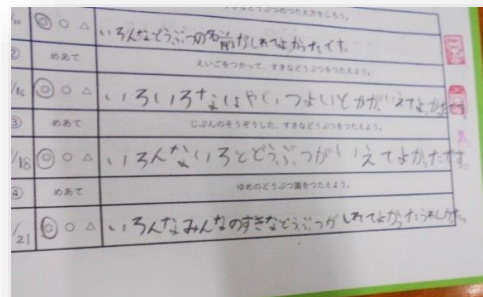
粘り強く取り組もうという側面、自らの学習を調整しようとする側面を見取り、価値付け、見通しをもって学習に取り組む姿勢を育ててきました。また高学年では、自らの学習を振り返ることにより、次の授業に必要なことは何か、何ができるようになるかと問題が解決できそうかといった学習の見通しを児童自らもつことができるようになりました。また、児童の頑張りを価値付けることにより、次の学びへの意欲付けもしてきました。低・中学年でも、学習感想とともに「次はこうしたい」「次は〇〇を頑張りたい」と次の学びへ取り組みたいことを、児童自ら考えることができました。

学びを生活や次の学習にむすびつける

深い学び

低・中学年を中心に、英語の授業で学んだことが生活に結びつかせ、英語への興味・関心をもたせる。

Closing



研究の成果

今後の課題

低学年

外国語を学習することで、外国語についての興味や関心が高まった。そのため、普段の生活の中で何気なく使っている言葉や、ものの名前などを英語で何というか「知りたい、言ってみよう」と、学びが授業から生活へと広がっていくことができた。

低学年では活動時数が少ないため語彙や表現の定着が難しい。定着がされないまま、既習事項の活用ができずにいる。そのため、朝や給食の時間など外国語活動以外の帯の時間を活用し、語彙や歌、表現に親しんでいく。また、外国語だけでなく他の教科でもふりかえりの力をつけていきたい。

中学年

外国活動に対する興味・関心が高まり、語彙の数や使える会話文の数が増えてきた。友達や先生に英語で話して伝わったり、聞き取れたりできた時の喜びを知り、さらに向上したいという強い気持ちをもつようになった。

学習内容が増えるので、新出単語や例文を十分に身に付け自信をもって使いこなせるようになるためには、それらの日常化が必要である。教室内外に英語に慣れ親しめる掲示を増やし、隙間時間の有効利用を工夫し、英語に楽しく自然に慣れ親しんでいく環境づくりと時間の保障が大切である。

高学年

会話の型 (Script) を繰り返して練習することにより、児童が自信をもち、獲得させたい知識・技能を定着させることができた。また、会話の型だけでなく様々なアクション (Script+1) をとることで、会話の幅が広がり、会話のつながりを実感できるようになった。

英語を書けるようになりたい、と思う児童が多い反面、実際に書くことに苦手意識をもっている児童が多い。書く指導を一単位時間の展開の中に設けられると、継続的な取り組みとなり、書くことに苦手意識をもつ児童も少なくなると考えられる。

英語の授業を支える取組

地域との連携

毎年、地域の方にご協力をお願いしている算数の「九九クリニック」に加え、今年度からは、「ABCクラス」という名で放課後教室を実施しました。3年生を対象に、主にアルファベットを中心に主に書くことの定着をねらいとして、全4回実施しました。



環境整備

教室では、児童が既習事項を生かせるよう、学習した表現を掲示しました。どのように伝えたら良いかわからない時の児童の拠り所となり、安心感をもって授業に臨めました。また、階段などを利用して曜日や数字、単語などを掲示し、教室外でも英語に馴染み親しむ環境を整備しました。

What can you do? I can ~.
What OO do you like? I like ~.
When is your birthday?
What time do you get up? I get up at ~



中学校との連携

中学校の英語担当の先生と、本校の研究推進委員とで、英語の指導法や小学校と中学校とのスムーズな接続について共有しました。また、本校の研究授業・協議会に参加していただき、助言もいただきました。

職員研修

研究協議会の在り方を、従来型の協議会のスタイルからKJ法を中心としたワークショップスタイルに一新しました。このスタイルにより従来、発言する人が限られたり、研究主題から話題がそれてしまったりすることが無くなり、ベテラン中堅・若手関係なく、活発に意見を交換できるようになりました。また、すべての教員に研究への参画意識をもつことをねらいに、また主に若手・中堅教員を中心にリーダー演習を兼ねて「なりきり指導主事」として、協議会の最後に自分なりの視点で指導・助言をしました。会を重ねることに、私たち教員も見通しをもち、主体的に学ぶことができました。



おわりに

平成30年度・令和元年度調布市教育委員会研究推進校として外国語科・外国語活動の授業実践を中心とした2年間の研究を進めてまいりました。

研究を進める中で、教師は普段の教科と同じように平常心で英語と向き合ってきました。英語という外国語を通して、楽しく英語と接し、親しむ児童の姿を見ることができました。英語に興味をもつことは、英語にかかわる人や文化について学びを深め、コミュニケーションをとろうとすることにつながってくると確信しています。

結びになりますが、ご指導いただいた講師の先生方、また、研究の機会を与えてくださいました調布市教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

調布市立石原小学校 副校長 三瓶 邦吉

今年度、ご指導いただいた先生方

玉川大学 大学院教育学研究科 教授

佐藤 久美子先生

八王子市立上柚木小学校英語講師

田所 千鶴先生

研究に携わった教職員

◎研究推進委員長 ○研究推進委員